

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年1月4日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473600371		
法人名	社会福祉法人 三篠会		
事業所名	グループホーム甲田		
所在地	広島県安芸高田市甲田町下小原3363番地 (電話) 0826-45-7777		
自己評価作成日	令和4年12月13日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3473600371-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3473600371-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年12月22日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

各利用者が、自分らしく生活を送ることができるように本人及び家族の希望を聞く機会をできるだけもてるよう心掛けている。また、個々の思いに寄り添いながら落ち着いた楽しい生活が送れるよう介護技術としてユマニチュードを全職員が学び、日々の支援に取り入れている。引き続きコロナ禍のため思うようには運ばないが、今の環境下でできることを、グループホーム内だけでなく地域の方との交流を通し絆を深めながら、地域住民としての役割を担い張りのある生活が送れるように支援していくことを目指している。制限はあるが、家族との交流も感染対策を行いながら支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

地域と連携して社会貢献するために『感謝の念をもって人に尽くす』精神のもと、地域での生活を重視し、自宅での生活が困難になった時、利用者の思いに寄り添いながらその人らしく施設での生活が継続して受けられるよう支援している。特別養護老人ホームや短期入居生活介護利用からグループホームに利用を変更する際に、利用料の価格にあまり差がないよう設定している。職員は介護技術として認知症ケア技法「ユマニチュード」を修得し、介護を受ける方、介護をする方も笑顔で日々支援に取り組んでいる。外出自粛のおり、感染症対策を実施し、玄関での短時間の面会や外出自粛の中で職員がアイデアや提案を出し合い、事業所内で出来る行事や畑で収穫したお芋で焼き芋会など喜びが楽しみに繋がる支援をしている。

自己評価	外部評価	項目( A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念、部署目標に基づき利用者処遇や職員のケアに対する意識統一を図る。またミーティングや申し送り時に必ず確認するようにしている。	法人理念をもとに経営理念を揚げ、部署ごとに年間目標を設定している。ミーティング時等に確認し意識統一を図っている。「目標記入シート」には施設、部署目標の記載もあり、各自目標に沿った個人目標を設定し、日々実践に取り組んでいる。又、半年ごと目標達成度を個人面談で検証している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	これまでは地域とのつながりとして、施設主導の祭りの開催や地域の祭りへの参加があったが、今年もコロナの影響で中止、参加見合わせとなっている。	コロナ禍で従来通りの地域交流が困難な中で、買い物時の挨拶や新型コロナウイルス感染症予防対策を実施し、玄関先で短時間の面会や地域住民の方による門松飾りなど地域との連携を図れるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナの影響により運営推進会議が中止となっていたが、今後は地域の感染状況をみながらの開催を予定しており、これまで同様に地域の方にも参加していただき情報共有を継続する。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年4回開催している。今年度はコロナの影響で書面をもった報告となっている。事業報告や検討内容と合わせて、日々の様子や取組み等も公開している。	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により出席者参加の開催は1回のみであったが、中止の際は書面にて利用者家族、住民代表者、地域代表者、関係機関職員に事業報告、介護事故報告、活動行事報告、身体拘束についてなど行い情報共有している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	行政担当者とは運営推進会議や書面での報告にて事業所実績やサービスの取組み等定期的に情報交換を行い、連携や質の向上に努めている。	行政担当者の運営推進会議参加や書面にて情報共有している。行政主催の研修参加や担当者とは日頃から事業所報告や相談など信頼関係の構築に努めている。	

自己評価	外部評価	項目( A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束・玄関の施錠は行っていない。</p>	<p>身体拘束廃止委員会の参加や会議・研修を通じて「身体拘束をしないケア」「不適切ケア」など必要性について全職員が理解し、認識を深め日々実践している。半年ごとの個人面談で個々のケアの振り返りを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>定期的に施設内で法定研修が開催されることで、普段から職員が虐待について勉強し、個々の意識を高め、利用者が安心して生活できるよう心掛けている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>地域権利擁護事業や成年後見人制度について外部研修で学ぶ機会があり、研修資料等は閲覧できるようファイルしてある。また、必要な場合には支援できる体制にある。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入退所時に面接や調査を行い、説明・納得の上、同意を得ている。また、サービスの内容の変更点（加算等）は運営推進会議の場でも説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議や家族会の開催が難しい時期ではあったが、ケアプランの意向確認や面会の時に話を聞く機会を設けている。また、要望や苦情受付の連絡先を掲示している。</p>	<p>運営推進会議議事録の送付や玄関にて短時間の面会時、電話連絡などで意見や要望を聞く機会を設けている。家族の意見の中で職員の名前が分からないとの意見があり、職員紹介の便りを送付出来るよう検討制作中である。</p>	

自己評価	外部評価	項目( A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員面談等、定期的に意見を聞く機会を設けており、その機会以外でも随時対応している。	申し送り時や定期的な会議、年2回の個別面談にて意見を聞く機会を設けている。介護方法、業務体制など職員が働きやすい職場を目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の業務評価において面接を行い、職員個々の意見を聞く機会を設けている。その中で個人目標を設定し、各自の意欲向上を図るとともに意見交換を行っている。その他、法人全体としてノーリフティングケアを推奨し、腰痛予防に努める等、職員が働きやすい環境を目指している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員一人ひとりの能力を把握し、スキルアップできるよう、法人内外への研修参加の機会を設けている。新人職員についてはOJTによる育成も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	関連事業所と研修会や交換実習等を通して、交流や意見交換をし、業務改善に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用開始前に本人と家族、職員を含めた事前面接を行い、要望や不安な点を聞く機会を設けている。利用開始後も本人の訴えに応じて傾聴し、思いを汲み取り納得していただけるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目( A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用開始前の事前面接で、本人・家族と話し合いの場を設けることで不安が取り除けるよう努めている。 利用開始後も運営推進会議や家族会を通し、話を聞き思いを知る努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	専門職が連携を取りながら、本人や家族と情報交換を行い、本人の希望に添えるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	毎日の生活において、本人の生活歴を通して個人個人に合った役割や得意な分野を見出すことでそれぞれの思いが尊重できるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	運営推進会議や家族会を定期的に開催することで、利用者の近況報告を行っている。外出等に関しては家族の理解を得ながら関係を保っている。昨年同様、コロナの影響で家族を施設に招くことが困難だったので、電話での近況報告と合わせて写真入りのハガキを送付し、施設での様子を伝えた。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	施設関係者以外の来所に対しての受け入れを行っている。また地域行事への参加や施設行事に参加していただく等、馴染みのある方との交流を支援している。今年是不十分ではあるが、感染状況をみながら自宅周辺のドライブや地元のお店で買い物を継続している。	敷地内ケアハウス居住の知人との交流や玄関にて短時間の面会、年賀状のやりとり、買い物やドライブ途中に自宅周辺に立ち寄るなど、利用者に寄り添いながら出来る範囲内で、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目( A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活や行事・外出を通して交流を持ち、仲間としての意識や関わりが持てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も退所後の受け入れ先の相談や調整を行っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の生活において、本人の希望や意向を把握するために関わりを持つことで、本人への理解を深め、本人に合った生活環境が提供できるよう検討している。	日頃の様子や関わる中で要望や意向の把握に努めている。思いや意向の把握が困難な利用者には家族からの聞き取りや利用者に寄り添う中で表情やふとした仕草にて把握に努めている。意見や要望など申し送りノートに記録し、全職員が情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族との面談を通して、これまでの生活歴やサービス利用歴を把握している。しかし核家族化によって連絡が取りづらいため、キーパーソンでも利用者のこれまでの経過を知らない等の現状もあり、情報不足の点もある。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個人個人の票を作成し、生活面での注意点・趣味・パーソナリティの把握に努め、情報の共有を行っている。		

自己評価	外部評価	項目( A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>職員の意見や、気づきを日々記録し、本人・家族の意向を取り入れて介護計画を作成している。</p>	<p>利用者、家族の意向や要望、毎日のケアの中で気づきを記録し、月1回の会議にて検証し、提案やアイデアを反映した介護計画を作成している。毎日の実施状況や3ヶ月ごとのモニタリングで見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日個々の生活状況を記録している。ケアプランに則したチェック項目を設け、実践の確認をしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>地域行事に参加したり、地域の方との交流会を持ち、利用者が生き生きと暮らせる支援をしている。ユニットごとで、より個別化したケアにも取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>かかりつけ医との連携だけでなく、地域の中での暮らしを継続できるよう、情報収集している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	<p>利用者・家族の希望を重視し、適切な医療機関に受診していただけるよう支援している。</p>	<p>契約時に主治医の希望を確認している。以前からの主治医受診継続も可能である。訪問歯科の月2回の診療や併設する介護老人福祉施設の看護師による健康管理など支援体制を整えている。受診は家族の協力を得ながら、職員の同行など適切な医療機関の受診が出来るよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目( A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者の状態を確認し、報告している。服薬や日々の健康管理に気を配り連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	随時、病院関係者と連携を行っている。利用者が入院時は、認知症のBPSDについてなど担当看護師に細かく伝達するよう努めている。退院調整や退院前カンファレンスなどは相談員を中心に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	主治医の指示のもと、本人・家族・職員とで話し合いを行っている。	契約時、重度化した場合の指針を説明し同意を得ている。看取りは行っていない。段階的に併設する介護老人福祉施設の申し込みの検討など話し合いをしている。重度化した場合、医師や家族、関係職種と話し合いを行い、利用者、家族に寄り添いながら事業所で出来る範囲内の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	日頃から医務室との連携を図り、定期的な救急講習を受けている。救急マニュアルにも目を通し、職員の意識づけを行っている。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回防災訓練を実施している。コロナ感染拡大以前は毎年地域との自主防災訓練にも参加していたが、以降は施設内での訓練のみとなっている。	年2回施設全体で合同防災訓練を実施している。豪雨時の避難経緯もあり、避難経路など全職員で意識統一をしている。災害時に備えて備蓄品(3日分)を整備している。	

自己評価	外部評価	項目( A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人の人格や誇り、プライバシーに関して損なわれることがないよう配慮し、記録の取り扱いについても慎重に行っている。	研修や職員間で気づき、指導など利用者一人ひとりの人格を尊重し、声かけや言葉かけに配慮し、寄り添うケアで、誇りやプライバシーを損なう事のないよう取り組んでいる。記録の取り扱いには充分配慮し慎重に扱っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者自らが行動し、意思決定できるような支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースに合わせた暮らしが送れるよう、その人らしい生活の支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人らしさやその人の好みのおしゃれをできるだけ自分で選んでいただく、決めていただくということを大切に、支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食の好みについては利用者に栄養士が嗜好調査を行っている。食事の配膳や後片付けはお手伝いいただきながら、関わっている。その他、利用者の咀嚼や嚥下状態に合わせて、食事形態を見直し、安全においしく食べれるよう配慮している。	食事は栄養士による献立で施設内の厨房で作られる。利用者の出来る事を役割として配膳や下膳など職員と一緒にしている。嗜好調査で代替え食や利用者の咀嚼や嚥下状態に合わせて食事形態を工夫している。内食会（巻きずしなど）おやつ会（おはぎ、柏餅など）食を楽しむ支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目( A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事形態は個人にあったものを提供することで、栄養面だけでなく食事量の確保に努めている。水分もこまめに提供することで摂取量の確保に努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、一人ひとり口腔ケアの声掛け、促しを行い実施している。自分で口腔ケアが困難な方には職員が介助を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>日中、夜間とその方に合わせたトイレ誘導を行い、リハビリパンツ・尿取りパッドへの失敗、皮膚トラブルの軽減に努めている。またトイレ誘導時には蒸しタオルでの清拭を行い、気持ちよく排泄していただけるよう心掛けている。</p>	<p>利用者の排泄パターンや排泄習慣に合わせて自立に向け、トイレ誘導の声掛けをしている。夜間時はポータブルトイレ設置や排泄時の転倒防止の為にセンサーマットを設置している。自然排便に繋がるようラジオ体操、リハビリ体操や散歩、水分摂取などしている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>日々、ラジオ体操やリハビリ体操、運動を兼ねて施設敷地内の散歩を行っている。こまめに水分を提供することで、一度にたくさん飲めない方にも、水分を摂っていただけるよう気をつけている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの体調や気持ちを尊重し、部署の生活支援に沿って、入浴していただいている。行事があれば調整しているが、どちらも楽しんでいただけるよう努めている。</p>	<p>週2回の入浴で、利用者の健康状態や気持ちに考慮し柔軟に対応している。脱衣室と浴室内の温度差がないよう温度管理や浴室内は手すり、シャワーチェアなど安全に入浴出来るよう配慮している。季節のゆず湯、入浴後は皮膚トラブル防止に保湿剤の塗布など入浴を楽しむ支援をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目( A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	利用者の生活リズムをある程度 把握し、尊重している。散歩や 体操等で心地よい疲労感を感じ ていただけるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	個人の服薬ファイルを作成し、 職員全員が目を通すことで意 識を高め、服薬に対する認識を きちんと持つよう努めている。 状態に応じて職員間で話し合 い、必要に応じて医師・看護師 に指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	一人ひとりの能力や今までの生 活歴等を参考にしながら役割を 見つけ、楽しみながら生活でき るよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	事業所の裏庭には季節に合わせ た野菜や花作りができるよう整 備し、一緒に取り組んでいる。 また、コロナで機会は減ってい るが地域行事の際には地域住 民へのボランティアの呼び掛け 等、地域の中の事業所として理 解をいただき交流の場となっ ている。ご家族との外出につ いても、協力を仰いでいる。	裏庭の畑で季節の野菜作りや 収穫したさつまいもを落葉を集 めての焼き芋会、利用者の希 望を把握しての少人数のドラ イブや自宅周辺へのドライブ など感染症予防対策をして支 援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように 支援している。	本人や家族の希望に添えるよう 、あまり高額にならない範囲 での支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目( A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人や家族の希望に合わせ、支援を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間は1日に2～3回活動できる利用者とともに清掃・換気を行い、清潔を保つようにしている。ホールには行事の写真や、製作活動での作品を飾る等している。ソファの設置や空調・照明の調整で利用者の安らげる場所作りを心掛けている。	壁面には利用者と職員が一緒に制作した作品を展示している。天井が高く解放感があり、机や椅子、利用者の体型に合うよう座布団、クッション、足台など工夫している。新型コロナウイルス感染症予防対策として消毒や換気、掃除や空調管理、採光など意心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事や談話、テレビを楽しむスペース等を設けている。ホール内は自由に活動できるようにし、利用者同士で思い思いに過ごせる場の提供に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は本人や、家族と相談しながら、自宅等で使用されていた馴染みのものを持ち込んでいただき、本人が安心して過ごせる居心地の良い部屋となるよう工夫・協力している。	居室入り口に表札がある。ベット、クローゼット、洗面台、加湿器など設置している。居室に洗面台があり、身だしなみを整える事もでき、利用者が思い思いの使い慣れた馴染みの物を持ち込むなど、安心して自宅のように意心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	生活上の注意点、趣味などを知り、職員間で情報共有し、サービス向上に努めている。		

V アウトカム項目( A棟 ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目( B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念、部署目標に基づき利用者処遇や職員のケアに対する意識統一を図る。またミーティングや申し送り時に必ず確認するようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	これまでは地域とのつながりとして、施設主導の祭りの開催や地域の祭りへの参加があったが、今年もコロナの影響で中止、参加見合わせとなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナの影響により運営推進会議が中止となっていたが、今後は、地域の感染状況をみながらの開催を予定しており、これまで同様に地域の方にも参加していただき情報共有を継続する。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年4回開催している。今年度はコロナの影響で書面をもった報告となっている。事業報告や検討内容と合わせて、日々の様子や取組み等も公開している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	行政担当者とは運営推進会議や書面での報告にて事業所の実績やサービスの取組み等、定期的に情報交換を行い、連携や質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目( B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束・玄関の施錠は行っていない。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>定期的に施設内で法定研修が開催されることで、普段から職員が虐待について勉強し、個々の意識を高め、利用者が安心して生活できるよう心掛けている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>地域権利擁護事業や成年後見人制度について外部研修で学ぶ機会があり、研修資料等は閲覧できるようファイルしてある。また、必要な場合には支援できる体制にある。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入退所時に面接や調査を行い、説明・納得の上、同意を得ている。また、サービスの内容の変更点(加算等)は運営推進会議の場でも説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議や家族会の開催が難しい時期ではあったが、ケアプランの意向確認や面会の時に話を伺ったりしている。また、要望や苦情受付の連絡先を掲示している。</p>		

自己評価	外部評価	項目( B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員面談等、定期的に意見を聞く機会を設けており、その機会以外でも随時対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の業務評価において面接を行い、職員個々の意見を聞く機会を設けている。その中で個人目標を設定し、各自の意欲向上を図るとともに意見交換を行っている。その他、法人全体としてノーリフティングケアを推奨し、腰痛予防に努める等、職員が働きやすい環境を目指している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員一人ひとりの能力を把握し、スキルアップできるよう、法人内外への研修参加の機会を設けている。新人職員についてはOJTによる育成もを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	関連事業所と研修会や交換実習等を通して、交流や意見交換をし、業務改善に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用開始前に本人と家族、職員を含めた事前面接を行い、要望や不安な点を聞く機会を設けている。利用開始後も本人の訴えに応じて傾聴し、思いを汲み取り納得していただけるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目( B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用開始前の事前面接で、本人・家族と話し合いの場を設けることで不安が取り除けるよう努めている。 利用開始後も運営推進会議や家族会を通し、話を聞き思いを知る努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	専門職が連携を取りながら、本人や家族と情報交換を行い、本人の希望に添えるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	毎日の生活において、本人の生活歴を通して個人個人に合った役割や得意な分野を見出すことでそれぞれの思いが尊重できるように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	運営推進会議や家族会を定期的で開催することで、利用者の近況報告を行っている。外出等に関しては家族の理解を得ながら関係を保っている。昨年同様、コロナの影響で家族を施設に招くことが困難だったので、電話での近況報告と合わせて写真入りのハガキを送付し、施設での様子を伝えた。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	施設関係者以外の来所に対しての受け入れを行っている。また地域の行事への参加や施設の行事に参加していただく等、馴染みのある方との交流を支援している。今年は不十分ではあるが、感染状況をみながら自宅周辺のドライブや地元のお店での買い物等を継続している。		

自己評価	外部評価	項目( B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活や行事・外出を通して交流を持ち、仲間としての意識や関わりが持てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も退所後の受け入れ先の相談や調整を行っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の生活において、本人の希望や意向を把握するために関わりを持つことで、本人への理解を深め、本人に合った生活環境が提供できるよう検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族との面談を通して、これまでの生活歴やサービス利用歴を把握している。しかし核家族化によって連絡が取りづらいため、キーパーソンでも利用者のこれまでの経過を知らない等の現状もあり、情報不足の点もある。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個人個人の票を作成し、生活面での注意点・趣味・パーソナリティの把握に努め、情報の共有を行っている。		

自己評価	外部評価	項目( B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>職員の意見や、気づきを日々記録し、本人・家族の意向を取り入れて介護計画を作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日個々の生活状況を記録している。ケアプランに則したチェック項目を設け、実践の確認をしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>地域行事に参加したり、地域の方との交流会を持ち、利用者が生き生きと暮らせる支援している。ユニットごとで、より個別化したケアにも取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>かかりつけ医との連携だけでなく、地域の中での暮らしを継続できるよう、情報収集している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>利用者・家族の希望を重視し、適切な医療機関に受診していただけるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目( B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者の状態を確認し、報告している。服薬や日々の健康管理に気を配り連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	随時、病院関係者と連携を行っている。利用者が入院される時は、認知症のBPSDについてなど担当看護師に細かく伝達するよう努めている。退院調整や退院前カンファレンスなどは相談員を中心に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	主治医の指示のもと、本人・家族・職員とで話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	日頃から医務室との連携を図り、定期的な救急講習を受けている。救急マニュアルにも目を通し、職員の意識づけを行っている。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回防災訓練を実施している。コロナ感染拡大以前は毎年地域との自主防災訓練にも参加していたが、以降は施設内の訓練のみとなっている。		

自己評価	外部評価	項目( B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人の人格や誇り、プライバシーに関して損なわれることがないよう配慮し、記録の取り扱いについても慎重に行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者自らが行動し、意思決定できるような支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースに合わせた暮らしが送れるよう、その人らしい生活の支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人らしさやその人の好みのおしゃれをできるだけ自分で選んでいただく、決めていただくということを大切に、支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食の好みについては利用者に栄養士が嗜好調査を行っている。 食事の配膳や後片付けはお手伝いいただきながら、関わっている。その他、利用者の咀嚼や嚥下状態に合わせて、食事形態を見直し、安全においしく食べれるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目( B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事形態は個人にあったものを提供することで，栄養面だけでなく食事量の確保に努めている。水分もこまめに提供することで摂取量の確保に努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後，一人ひとり口腔ケアの声掛け，促しを行い実施している。自分で口腔ケアが困難な方には職員が介助を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>日中、夜間とその方に合わせたトイレ誘導を行い、リハビリパンツ・尿取りパッドへの失敗、皮膚トラブルの軽減に努めている。またトイレ誘導時には蒸しタオルでの清拭を行い、気持ちよく排泄していただけるよう心掛けている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>日々、ラジオ体操やリハビリ体操、運動を兼ねて施設敷地内の散歩を行っている。こまめに水分を提供することで，一度にたくさん飲めない方にも，水分を摂っていただけるよう気をつけている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの体調や気持ちを尊重し，部署の生活支援に沿って，入浴していただいている。行事があれば調整しているが，どちらも楽しんでいただけるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者の生活リズムをある程度把握し、尊重している。散歩や体操等で心地よい疲労感を感じていただけるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人の服薬ファイルを作成し、職員全員が目を通すことで意識を高め、服薬に対する認識をきちんと持つよう努めている。状態に応じて職員間で話し合い、必要に応じて医師・看護師に指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの能力や今までの生活歴等を参考にしながら役割を見つけ、楽しみながら生活できるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	事業所の裏庭には季節に合わせた野菜や花作りができるよう整備し、一緒に取り組んでいる。また、コロナで機会は減っているが地域行事の際には地域住民へのボランティアの呼び掛け等、地域の中の事業所として理解をいただき交流の場となっている。家族との外出についても、協力を仰いでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人や家族の希望に添って、あまり高額にならない範囲での支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目( B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人や家族の希望に合わせ支援を行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用空間は1日に2～3回活動できる利用者とともに清掃・換気を行い、清潔を保つようにしている。ホールには行事の写真や、製作活動での作品を飾る等している。ソファの設置や空調・照明の調整で利用者の安らげる場所作りを心掛けている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食事や談話、テレビを楽しむスペース等を設けている。ホール内は自由に活動できるようにし、利用者同士で思い思いに過ごせる場の提供に努めている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室は本人や、家族と相談しながら、自宅等で使用されていた馴染みのものを持ち込んでいただき、本人が安心して過ごせる居心地の良い部屋となるよう工夫・協力している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>生活上の注意点、趣味などを知り、職員間で情報共有し、サービス向上に努めている。</p>		

V アウトカム項目( B棟 ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム甲田

作成日 令和5年3月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	狎れ合いによる不適切ケア。	どれだけ親しく信頼関係を築けても、「利用者と職員」との関係を念頭にサービスを提供する。	ユマニチュードの実践と振り返りを通し、ケアの質向上。	6ヶ月
2	33	重度化/看取り対応に不安が残る。	全職員が様々な状態/状況の利用者に適切な対応を可能とする。	ノーリフティングケアの研修を通し、適切に福祉用具を使用できるケアの習得。看取り研修を適宜実施し、対応力を得る。	6ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。